

令和5年度 事業報告書 左京西部いきいき市民活動センター

【指定管理者：特定非営利活動法人劇研】

1. 管理運営の状況

1 施設運營業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 7 名（常勤 1 名、非常勤 6 名）

【人材育成の取組】

- ・ 2024 年 1 月 30 日に研修会を実施（左京西部、東部合同）
- ・ 事業に関わる職員については、別途個別に研修を実施

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
336	311	332	335	307	408	367	372	268	295	333	362

(年間)

4022 件（前年度比 83.7%）

イ 利用状況

- 利用料金制度への移行により、昨年度と比べて件数ベースで 780 件減、時間ベースで 1863 時間減となった。特に移行前の予約ができた 4~6 月の減少が顕著だった。利用団体の内訳は音楽・演劇などのパフォーマンス系団体の利用が約 70%。昨年度より利用可能となった営利目的でない事業者の利用は 18 件 136 時間だった。

ウ 今後、様々な方法で利用率を上げていくことが課題。事業者利用は昨年度の 4 件 19 時間から 18 件 136 時間と大幅に増えたが、市民活動利用と事業者利用のバランスは引き続き考え続けて行くべきことだと認識している。

エ 令和 6 年 3 月 18 日より、利用者の利便性向上のため、当日の利用に限り、電話での仮予約を受け付ける事とした。3 月 18 日から 3 月 31 日までで 5 件の当日電話仮予約があり、今後の利用者増加につなげたい。

- サロンは昨今、利用者の高齢化で、特に自由利用者が減っており、2~3 名が週 2 回利用するという状況だったが、10 月以降その方たちの利用がなくなった。一方、サロンを使用した提案事業の実施で、これまで当センターを知らなかった方々がサロンを訪れ、センターの利用に繋がるケースが増えた。1 月以降、新たな地域住民のグループ 4~5 名がほぼ毎日サロンを利用するようになった。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- センターのホームページのほか、Twitter、Facebook での情報発信を行っている。
- サロンでの地域に係る展示や、かもがわデルタフェスティバルを使った、利用者の成果発表など地域の魅力を発信する機会を作っている。

イ 取組の効果

- 特に提案事業へのボランティア参加者が増え、新たな事業のアイデアも提案された。提案された事業は令和 6 年度より実施予定。

(4) 管理運営

- 備品の長机やパイプ椅子等が老朽化し、使用できないものが増えてきたが、単純に買い替えるのではなく、職員自身が修理し、その様子を SNS で発信している。

廃材を利用した棚やテーブルを共有スペース（ロビー）に設置し、美しく居心地のいい空間づくりを心がけている。

(5) その他

利用者への積極的な声掛けや、地域の取り組みへの積極的な参加を行っている。特に養正市営住宅は再開発に着手しており、今後どんな地域にしていきたいかという課題を地域住民とともに話す場として、サロンを使ってもらうなど、地域の発展に貢献できるよう努めている。

また、同じ建物内の養正保育所や、地域内の養正小学校とも連携し、事業を行っている。

2. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み 1、外国籍市民と古くから住む住民、若者と高齢者などが互いの理解を深め、交流を促進する事業（多文化交流事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年9月16日（土）15時～17時
- 2 開催場所：希望の広場（養正児童公園）
- 3 参加人数：来場者約800名
- 4 協力団体等：かもがわデルタフェスティバル実行委員会／カポエイラ・アンゴラ インジンガ京都
- 5 予算：1,160,000円 / 決算：1,158,128円

1 事業内容

- 当センターも実行委員として参加している「かもがわデルタフェスティバル」の関連企画として、「かもがわデルタフェスティバル」のステージを利用し、「カポエイラ・アンゴラ グループ インジンガ 京都」「PPI KYOTO SHIGA」の協力を得て、カポエラやインドネシアスマトラ島の伝統舞踊の紹介を行い、同じ舞台で「養正小学校金管バンド」の演奏や「田中村六斎念仏保存会」の六斎念仏踊りの発表を組み合わせることで、地域の方と海外にルーツを持つ方との交流の場をつくった。
- イベントだけに留まらないよう、フェスティバル中、当センター内に学国籍の方向けの相談窓口を設置した。

2 準備段階での工夫

- 「カポエイラ・アンゴラ グループ インジンガ 京都」「PPI KYOTO SHIGA」「田中村六斎念仏保存会」「養正小学校」のご協力をいただき、実施した。
- 地域の複数の団体で構成された「かもがわデルタフェスティバル実行委員会」協力のもと広報、準備活動を実施し、スムーズな運営ができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 1000名程度の参加者を目標としていたが、800名の参加があった。
地域の方々と特に外国籍の左京西部いきいき市民活動センター利用者との交流の場を作り、文化紹介を行い相互理解を深めるという効果が見込まれた。

（2）事業実施による目標の達成度

- 参加人数の達成度は80%。
- 「インドネシアの伝統舞踊が迫力があってすごかった」「六斎念仏というものを聞いたことはあったが、観たことはなく、実際に初めて観ることができてよかった」などの良い感想をいただいた。

4 今後の抱負

- 今後もこうした異文化交流の場を広めるとともに、子育て支援や防災などの事業に参加してもらい、日常生活レベルでの相互理解と課題解決に寄与できるようにしたい。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み 2 廃材アート作品制作ワークショップ事業（廃材アート）

事業の概要

- 1 開催日時：WS：4月22日から毎月第3土曜日に開催。計12回 展示：9月16日 3月20日～24日
- 2 開催場所： ふれあいサロン
- 3 参加人数： 各回約50名、計のべ約600名
- 4 協力団体等： スタジオぐるり
- 5 予算：720,000円 / 決算：721,517円

1 事業内容

- 水野哲雄京都芸術大学名誉教授が主催するスタジオぐるりと協力して、高齢者や親子が参加できる廃材を使った、アート作品創作ワークショップを行った。9月と3月に作品の展示会を実施した。

2 準備段階での工夫

- 廃材アートで使用する材料調達、ワークショップの進行、展示など「スタジオぐるり」の協力を得て実行した。
- SNSを使った広報。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 当初の参加者目標は360名。アート作品制作を通じて環境問題やSDGsの取り組みに対する理解を深める効果が見込まれた。

（2）事業実施による目標の達成度

- 今年度から子育て用品リユース交換会と同日開催とし、それぞれの企画参加者が交流できるようにしたため、参加者はのべ600人となった。
ワークショップ、展示を通じて環境問題、SDGsに対する関心を喚起し、理解を深めることができた。
- とても楽しかった。リユース交換会と一緒に参加できるようになって良かった。ゴミから色々な作品が出来て子供と一緒に楽しめた。などの声が聞かれた。

4 今後の抱負

- 遊びながら環境問題、ごみ問題についての理解を深められるこの企画は好評で、引き続き実施していこうと考えています。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み 3 主に子育て世代を対象とした、リユース交換会サポート事業（リユース交換会）

事業の概要

- 1 開催日時：令和 5 年 4 月 22 日（土）～令和 6 年 3 月 16 日（月 1 回・計 12 回）
- 2 開催場所：左京西部いきいき市民活動センター ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約 50 名 のべ約 600 名
- 4 協力団体等：AT-Kyoto
- 5 予算：680,000 円 ／ 決算：679,955 円

1 事業内容

- 主に子育て世代を対象とした、リユース交換会を行っている任意団体 AT-Kyoto と協力し、子育てに必要なもの、すでに不要になったものの交換会を毎月 1 回、計 12 回行った。企画の周知や、開催日に参加できないひとのために、左京西部いきいき市民活動センター入口に交換会で残ったものを並べる棚を設置し、センター利用者や保育所に通う方も欲しいものがあれば持ち帰れるようにした。

2 準備段階での工夫

- 会場設営など AT-Kyoto の協力を得て実施した。
- SNS を使った広報。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 各回 25 組の親子 50 名×12 回 延べ 600 人を目標とした。
子育て世代の交流促進と共に、「捨てる」から「交換する」へ、SDG s への関心や意識向上を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 廃材アート WS と同日開催にしたこともあり、参加者のべ 600 名という目標は達成できた。
子育て世代の交流促進と共に、「捨てる」から「交換する」へ、SDG s への関心や意識向上に寄与することができた。
- 子育て用品が交換できるのはありがたいです。捨てるのはしのびなかったのがよかった。子育てされているいろいろな方達と交流できて心強く思いました。などの声が聞かれた。

4 今後の抱負

- 大変好評な事業であり、子育て支援、ふれあいサロンの活動という観点からも事業を継続していきたいと考えている。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み 4 まちづくりサポーター育成事業（ボランティア育成）

事業の概要

- 1 開催日時：令和 5 年 4 月 23 日（日）～令和 6 年 3 月 31 日／（月 1 回・計 12 回）
- 2 開催場所：左京西部いきいき市民活動センター ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約 15 名
- 4 協力団体等：左京朝カフェ 京都市東部まち美化事務所
- 5 予算：780,000 円 ／ 決算：765,000 円

1 事業内容

- 今年度より、左京朝カフェと協力し、当センターの企画する事業や地域の活動をサポートしてくれるボランティアを組織した。

月 1 回のペースで、当センター周辺の事情や、地域の市民活動活性化のための研修、ディスカッションを行った。9 月 16 日の「かもがわデルタフェスティバル」、1 月よりはじまった「月イチ地域清掃」にボランティアとして参加した。

2 準備段階での工夫

- 広報や事業実施について、左京朝カフェや京都市東部まち美化事務所の協力をいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- 5～10 名のボランティア参加者を目標としていた

（2）事業実施による目標の達成度

- 学生を含む 15 名が参加し、かもがわデルタフェスティバルや地域清掃などの事業をサポートした。
- お祭りに参加できてよかった。地域清掃をしている時に、住民の方に「ご苦労様」と言われたのが嬉しかった。などの声が聞かれた。

4 今後の抱負

- 当センター周辺地域は高齢化率が高く、地域を活性化するためには、学生を含む若者の地域活動への参加が不可欠であると考え、今後もまちづくりを支援するボランティアの募集、活動は継続していきたい。特に今年度は「防災」をテーマにした事業を企画しており、何かあった時に助け合えるボランティアを組織したい。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. サロン運営・活用事業

【事業名】サロンを活用した市民活動活性化事業 取り組み 1 地域課題解決サークル立ち上げ、サポート事業（サロン活性化サークル育成事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年4月23日～3月31日 /（月1回・計12回）
- 2 開催場所：左京西部いきいき市民活動センター ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約15名
- 4 協力団体等：京都学生演劇祭実行委員会 かもがわデルタフェスティバル実行委員会
- 5 予算：875,000円 / 決算：895,933円

1 事業内容

- ふれあいサロン（旧高齢者ふれあいサロン）を使った地域の活性化のためのサークルメンバーを募集し、サロン利用者、地域の方々への聞き取りや、専門家の話を聞きながら、サロンの活用法を考え、実践した。

具体的には昨年度末に提案され実践した「自由菜園」と「自由本棚」を継続し、「自由菜園」で収穫された野菜などは一部「ふれあい食事会」で使用し、タイミング的に難しいものは左京西部いきいき市民活動センター入り口のテーブルに並べ、利用者に持ち帰って貰えるようにした。生ごみを減らすため、コンポストを作成、設置した。

2 準備段階での工夫

- 京都学生演劇祭実行委員会、かもがわデルタフェスティバル実行委員会の協力を得て事業を実施した。
- SNSを使った広報。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 各回5～10名の参加を目標とした。ふれあいサロンを訪れる人を増やし、地域の活性化を促すことを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 各回15名の参加があり、目標は達成できた。
- この施設を使って、色々なことができそうで、出来るか考えるのは楽しかった。野菜がとれた時は嬉しかった。などの声が聞かれた。

4 今後の抱負

- 今年度の企画会議では「防災についてのイベント」と「バケツ田んぼ」「ビオトープ作成」が提案され、実施に向け準備している。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. サロン運営・活用事業

【事業名】サロンを活用した市民活動活性化事業 取り組み 2 地域の歴史、記憶アーカイブ事業（地域に係る展示）

事業の概要

- 1 開催日時：令和 6 年 2 月 21 日（水）～令和 6 年 3 月 4 日（月）
- 2 開催場所：左京西部いきいき市民活動センター ふれあいサロン
- 3 参加人数：来場者 104 人
- 4 協力団体等：大谷大学
- 5 予算：265,000 円 / 決算：265,000 円

1 事業内容

- 大谷大学、左京東部いきいき市民活動センターと協力し、「思い出の味」をテーマに地域の方にインタビューした内容をパネルにして展示した。

6 月に錦林、養正それぞれの住民にインタビューを行い、インタビューを基にパネルを創作し、左京西部いきいき市民活動センターふれあいサロンで、2 月 21 日～3 月 4 日の期間展示した。

2 準備段階での工夫

- 大谷大学の学生らと協力し、インタビュー、文章作成を行った。
- SNS での広報に加え、近隣の商店にも広報にご協力いただいた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- 100 名の来場者を目標とした。
- 地域の魅力を再発見し、地域外の人に知ってもらうことを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 来場者 104 名で目標は達成できた。「思い出の味」という身近なテーマで地域の魅力を再発見し、地域外の人に知ってもらうことができた。
- （地域の味である）「ようしょく」の話が懐かしかった。自分も子供の頃よく食べた。久しぶりに「こんまき」を作ってみた。などの声が聞かれた。

4 今後の抱負

- 地域の方々との交流にもなる事業であり、継続していきたい。今後も魅力的なテーマで地域の魅力を発掘、再発見し、地域外の人たちに伝えていきたいと考えている。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. サロン運営・活用事業

【事業名】高齢者食堂・子供食堂支援事業（ふれあい食事会）

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年4月27日～令和6年3月28日／（月1回・計12回）
- 2 開催場所：左京西部いきいき市民活動センター ふれあいサロン
- 3 参加人数：参加者78名
- 4 協力団体等：京都 Tera.Coya モンパン食堂 京都市立養正浴場 ようせいの家 など
- 5 予算：370,000円 ／ 決算：372,895円

1 事業内容

- これまで地域の高齢者の孤独化防止のため実施していた「高齢者食堂」を、高齢者を主な対象としながら、若い世代も参加しやすく、世代間交流を促進させる「ふれあい食事会」として、4月27日より、月1回、計12回実施した。

同時に、今後の「ふれあい食事会」ならびに「こども食堂」を支えてくれるボランティアスタッフを募集し、7名のボランティアスタッフを獲得した。

2 準備段階での工夫

- 「京都 Tera.Coya」「モンパン食堂」の協力を得て、事業を実施した。
- SNSでの広報に加え、京都市立養正浴場や、ようせいの家に広報協力をいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 参加者各回10名、計120名を目標とし、「ふれあい食事会」を介した多世代交流を促すことを目的とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 「高齢者食堂」を「ふれあい食事会」と名称を改め、高齢者だけでなく、広く参加できるようにした。年度前半は参加者も4～6名とまばらだったが、1月以降毎回約10名の参加者があり、「ふれあい食事会」を介した多世代交流が出来てきている。
- 知らない人と食事をするのは緊張したが、段々楽しくなった。片付けなどの協力が出来て良かった。さっきまでそこになっていた野菜が料理になって面白かったなどの声が聞かれた。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
特に4月～9月の期間、参加者が少なかった。10月頃から増え始めた参加者をさらに増やすよう、広報を強化するとともに、魅力的な交流の場創りをしていきたい。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和5年度実績：4,891,780 円（前年度比 105%）

内訳 会議室等：4,812,100 円

付属設備：79,680 円 ※自主事業分を除く

スモールオフィス：0 円

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和5年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
54.9%	43.5%	0.3%	0%	1.3%

(2) センター独自アンケート

○ 概ね満足

3 意見等への主な対応状況

○ 机やパイプ椅子などの備品が老朽化しているとの意見があったため、修繕している。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

概ね好評な意見をいただいているので、発展的に継続していきたい。

- 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

利用率を上げていくこと。

- 次年度に向けた対応について記載してください。

利用者の利便性向上と、地域の活性化を促し、利用率上昇につなげたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

- 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

特になし

【締め切り】

5月22日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書は、5月15日（水）までに提出してください。